
魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE

ハナト・バーニングブレイブ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE

【Nコード】

N7257W

【作者名】

ハナト・バーニングブレイブ

【あらすじ】

リリカルオーズStrikersのラジオ風番組！
全編ギャグでバカでアホで内容は気にするな！
ゲストも募集して、エイジとアंकが大騒ぎ！

第1回 ラジオと雰囲気と内容は気にするな

エイジ

「魔法仮面！」

アंक

「リリカルラジオーズ！」

エイジ・アंक

「「なんだこれNANDAKOLE！」」

エイジ

「さあ今週も始まりましたリリカルラジオーズ！ メインパーソナリティのエイジ」ヒノです！」

アंक

「いやちよつと待て！ まだ一回もやってねえし！ 何しれつと始めてんだ！ …… あ、メインパーソナリティのアंकです」

エイジ

「一番ノリノリじゃん…… まあタイトルの通り、この番組は連載中の小説、『魔法仮面リリカルラジオーズStrikers』のラジオ風番組です！」

アंक

「良いのかこんなんです……」

エイジ

「大丈夫だ、問題ない」

アंक

「大有りだ……。んでもって、こっちは息抜き更新だ。カメ並みの更新だと思うが、それでも我慢できるっつー奴だけ読んで……。聴いてくれ」

エイジ

「ゲストさんも待ってたりしますよ」

アंक

「そんなこんなでリリカルラジオーズ！」

エイジ・アंक

「この後すぐ！」

エイジ

「魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE。この番組は、
鴻上ファウンデーション

時空管理局

喫茶翠屋

多国籍料理店クスクシエ

レストランAGITΩ

魔法仮面シリーズ

の提供でお送りします！」

○魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE
第1回 ラジオと雰囲気と内容は気にするな

エイジ

「リリラジッ！」

アंक

「んじゃまあ最初にコーナー紹介だ」

エイジ

「この小せ……ラジオには以下のコーナーがあります！」

・『お前の欲望、解放しろ！』

・『ぼくのかんがえたさいきょーコンボ！』

・『答えてグリード！』

・『ゲストの、カウント・ザ・エピソード！』

・『いたってふつおた』

です！　じゃあお前の欲望から行こうか」

アंक

「『お前の欲望、解放しろ！』では、ラジオに投降されたおたより、もしくはゲストさんの欲望を、ADであるグリード達が開放しちゃうというものだ。

ADとして働いてるグリードは……

ウヴァ

カザリ

メズール

ガメル

アंक・ロスト

ついでに俺達、

アंक

エイジ

それからなぜか……

ヴィヴィオ（恐竜グリード）

だな……」

エイジ

「なんでヴィヴィオ!?!」

作者

『本編でグリードになったから!』キリッ

エイジ

「!? 今のは……?」

アंक

「幻覚だろ。んじゃ次だ」

エイジ

「そんなんでいいのかこのラジオ……。『ぼくのかんがえたさいきよーコンボ!』では、皆さんが考えたコンボに、俺が変身っ!!」

アंक

「どんなでもいいぞ。【パンツ・パンツ・パンツ!】とかでも」

エイジ

「『答えてグリード!』では、皆様のお悩みに先程のグリード達が答えちゃいます!」

アंक

「お前等、専門分野アピールしとけ」

カザリ

「僕はそうだなあ……割となんでも」

メズール

「恋愛相談は私以外には向かないわよね……?」

ガメル

「メズールがやるなら、俺も、頑張る!」

ウヴァ

「この俺にできないものなんてあるか?」

ロスト

『ボクはどこっ！?』

ヴィヴィオ

「ヴィヴィオもがんばるー」

アंक

「全然アピールになってねえじゃねえか!」

エイジ

「ほら、アंकもやっときな」

アंक

「ちっ……」。

俺は……馬鹿の使い方に関してだな」

エイジ

「パンツの事なら俺に何でも聞いて下さい!」

アंक

「恋愛相談だけはするな!」

エイジ

「ひどっ!」

アंक

「『ゲストの、カウント・ザ・エピソード!』では、来てくれたゲストさんの小説に関するエピソードを紹介するぞ!」

エイジ

「『いたってふつおた』はその名の通り、ラジオや本編のご感想をお待ちしております！」

アंक

「今回はこんなところか」

エイジ

「あ、なにになに……？」

『作者がエイジを描いて見ました。見苦しくても大丈夫ならどうぞ』……あ、これだね」

> i 3 1 1 5 6 — 2 7 7 1 <

エイジ

「なんで横向き！？」

アंक

「ちよつと感情表現が豊かなオットーみたいだなこれ」

エイジ

「はあ……まあそんな訳で、俺とかアंकを描いてくれる人も大募集です」

アंक

「次回はゲストを仮に入れてみてのヴァージョンだな」

エイジ

「うん。それじゃあ今回のラジオースはここまで！
お相手はエイジ〓ヒノと！」

アंक

「アंकでした！」

エイジ・アंक

「バイバイー！」

アंक

「魔法仮面リリカルラジオースNANDAKOLE。この番組は、
鴻上ファウンデーション

時空管理局

喫茶翠屋

多国籍料理店クスクシエ

レストランAGITΩ

魔法仮面シリーズ

の提供でお送りしました！」

第1回 ラジオと雰囲気と内容は気にするな（後書き）

・『お前の欲望、解放しろ!』

・『ぼくのかんがえたさいきょーコンボ!』

・『答えてグリード!』

・『ゲストの、カウント・ザ・エピソード!』

・『いたってふつおた』

・ゲストの申し込み

いずれもメッセージへお願いします。感想欄で書かれたものは、下手したら採用されませんのでご注意ください。

CMも募集しております。

ではで〜

第2回 ゲストと雰囲気と時間の無駄だ（キリッ

エイジ

「アバンストラッシュ^{クロス}X！」

アंक

「どうした？」

エイジ

「うっん、ダイの大冒険はやっぱり面白いなあ〜って」

アंक

「ああ、そうか……」

エイジ

「でもさでもさ！　今回はゲストがいるんだよね！？」

アंक

「身内だけだな」

エイジ

「細かいことは気にしない！　それじゃあ魔法仮面リリカルラジオ
ーズNANDAKOLE！」

エイジ・アंक
「スタートです／だ！」

エイジ

「魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE。この番組は、
鴻上ファウンデーション
時空管理局
喫茶翠屋
多国籍料理店クスクシエ
レストランAGITΩ
魔法仮面シリーズ
の提供でお送りします！」

○魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE
第2回 ゲストと雰囲気と時間の無駄だ（キリッ

エイジ

「人間は皆、自分自身の力でオーズになれるんだ！
どうも、メインパーソナリティのエイジ〃ヒノです！」

アंक

「俺が、俺達がオーズだ！
同じく、メインパーソナリティのアंकです」

エイジ

「この番組は連載中の小説、『魔法仮面リリカルオーズStrike
ers』のラジオ風番組です！」

アंक

「んじゃ呼ぶか、ゲストでも」

エイジ

「魔法仮面シリーズ最新作、『魔法仮面リリカルフォーゼStrike
ers』より！
主人公の『十六夜гент』君とその側近『ルナ』ちゃんです！
どうぞ！」

гент

「ラジオキターーーーーー!!!!!!」

ルナ

「お邪魔致します」

エイジ

「よくぞいらつしゃいました〜!」

アंक

「はっ! 別に来なくても良かったかな」

гент

「まあそういうって。」

俺は十六夜гент! このラジオのスタッフ全員と友達になる男だ!」

ルナ

「ルナと申します。特技は炊事掃除料理洗濯。趣味は主の世話……耳掃除などです」

アंक

「夫婦か!」

エイジ

「良く分かんないけど、若いつていいなあ〜」

アंक

「映画ネタは良いから！ さっさと先に進めろ！」

エイジ

「うん。それじゃあゲストさんも交えて、色んなコーナーやっ
ていくよ！ 二人とも最後までよろしく！」

ゲント

「おうよ！」

ルナ

「よろしくお願い致します」

エイジ

「まずはこのコーナー！」

アंक

『ぼくのかんがえたさ

いきょーコンボ！』

エイジ

「応募のあったコンボに、俺が変身！！！」

гент

「おお、カッケーじゃん！」

アंक

「んじゃ最初な。RN・永遠のシヨタ野郎さんから。ほいメダル」

エイジ

「変身っ！」

【ヴァンパイア！ オウツ！ ワーウルフ！】

гент

「カッケーー！！！」

ルナ

「ですね」

アंक

「なんでも、ある人の小説に出てくる予定のオリジナルコンボらしい」

オーズ・ヴァンオルフコンボ

「へえ」

гент

「オリジナルっていや、作者はオリジナルコンボ出さねえのか？」

オーズ・ヴァンオルフコンボ

「魔法仮面シリーズはできるだけオリジナル無しでいくらしいよ。俺次回オリジナルコンボに変身するみたいだけど」

ルナ

「ですが原作に登場したメダルでしたよね？」

オーズ・ヴァンオルフコンボ

「俺もオリジナルに変身したいのにね。例えば……
ジャッカル！ キツネ！ オオカミ！
でジャッキオオコンボとか」

アंक

「もろデマリーじゃねえか！」

オーズ・ヴァンオルフコンボ

「そんな訳で、オリジナル担当はテマリーがいるんだよね」

гент

「なる」

アंक

「んじゃ次な。RNセイナさんからのお便り。ほい」

エイジ

「変身っ！」

【カミィラ！　ダーラム！　ヒュドラ！】

アंक

「名付けて、闇の巨人コンボだそうだ」

オーズ・闇の巨人コンボ

ファイナルオーデッセイ

「何か怖い！」

гент

「黒っ！」

ルナ

「禍々しいですね」

アंक

「そもそも投稿者がヤンデレで有名だからな」

オーズ・ヤンデレコンボ

「ねえ、俺変身解除して良い？」

アंक

「むしろさっさと解け！」

エイジ

「ふう〜」

гент

「今日はこんなもんか？」

アंक

「ああ」

エイジ

「それでは次のコーナー！」

アंक・エイジ

『答えてグリード！』

エイジ

「このコーナーでは、皆様のお悩みに先程のグリード達が答えちゃいます！」

アंक

「普通にグリードに対しての質問もあるけどな」

ゲント

「お、コレは俺も気になるな」

エイジ

「んじゃ最初。RN永遠のシヨタ野郎さんから。」

『ロストに質問。』ボクはどこ！？』がふざけた記憶喪失にしか聞こえないんですが、どうしたらいいですか？』

それとRN REDIRさんから。

『ヴィヴィオに質問。ぶっちゃけアंकの事どう思ってる？』
だって」

アंक

「……まずお前から行け。ロスト」

ロスト

『あ、いいですか？』

いやゝ、ぶっちゃけコレキャラ作ってるだけなんすよねwww
ホントはもっとこう、はっちゃんたいんすけどwww フヒヒw
ww『

エイジ・гент

「「はい変わったー！？」「」

ルナ

「こ、コレは驚きです……」

ロスト

『まあウザイっつーならこのままでいくっすけど、どしやすか？』

アंक

「お前そのままでいろ」

エイジ・гент

「「ちょー！」「」

ロスト

『ういゝっす!』

エイジ

「……」

гент

「……」

ルナ

「……」

アंक

「……」

エイジ

「……次、ヴィヴィオ良いよ」

ヴィヴィオ

「はい」

えっとね、アंकはヴィヴィオといっしょにあそんでくれるし、やさしいし、かっこいいんだよ!」

ゲント

「一言で言つと?」

ヴィヴィオ

「ヴィヴィオ、アंकのことだーいすき!」

エイジ

「だってきアंक」ニヤニヤ)

アंक

「……」

エイジ

「アंक?」

アंक

「……」

ルナ

「鼻血出しながらとても良い顔で昇天していますね」

エイジ

「仕方ない。医務室連れてくからгент、先進めとして」

гент

「お、おう。RN風上光さんからのお悩み。お、普通にお悩み相談だな。」

「僕はフェイトしか好きになれないのにどうしても金髪の女性とフラグを立ててしまいます。どうすればいいでしょう?」

と、コレはメズールへの相談だな」

メズール

『あらあら? それだけたくさんの愛を味わえるっていうのは、私からすればかなり羨ましいわね。それぞれの愛をキチンと受け止めた上で、フラグの立った相手に自分の想いを伝えれば良いんじゃないかしら』

гент

「だ、そうだ」

メズール

『それにしても……』

гент・ルナ

「「?」」

メズール

『この子……くすつ。結構可愛いわね。私も食べ【チュドフ！】』

ガメル

『メズール……!?』

гент

「い、今は……?」

ルナ

「ライオットザンバーでしたね」

гент

「……」

ルナ

「……」

エイジ

「ただい……どうしたの?」

アंक

「わが生涯に、一片の悔いなし……」

гент

「いや、アंकもかなりまずい気が……」

ルナ

「気にしないで下さい。次に行きましょう」

гент

「お前酷いな」

ルナ

「私は主が無事ならそれで良いです」

гент

「お、おう……」

エイジ

「何で結婚しないんだろうこの二人……。まあいいや、次のお便り。RNとある現役の殺し手（16歳）さんから。

『自分は良く年上、または年下の女性に好かれていましたが、最近ではそれがまた増えつつあり、その度に断り、落ち込ませてしまします。

どうにかして好かれるのを止めたい、ないし好かれる人数を少なく

するにはどうしたら良いでしょうか？

答えてグリードさん！』

だって。アレ？ メズールは？」

ゲント

「ビリビリしてる」

エイジ

「ビリビリ？」

ロスト

『ちょｗｗｗｗテラウラヤマシスｗｗｗｗマジそこ変われしｗｗｗｗ

まあいんじゃないの？ そのまんまで。想いを伝える側だって、断られる可能性があるって分かって告白してんだ。むしろそこでお前が悩む方が、告白してくれた人達に悪いんじゃないの？ 断るときにはキツチリ断って、自分の想いをちゃんと伝える。さっきのメズール姐さんの話じゃねえが、おどおどしてつと相手にも失礼だ。男なら胸張って、フレ！』

エイジ

「ロ、ロストが急に真面目な子に……」

ルナ

「キャラがさっぱり分かりませんね」

ゲント

「とりあえず次行くか……。RN勇ましく突き進むプトティラ作者さんから。」

『エイジさんアंकさん、ヴィヴィオちゃんその他グリードさん、おはこんにちばんは！』

エイジ・アंक・ゲント・その他スタッフ

「「「『『『『『『『『『『『「」」」」」」」」」」」

ウヴァ

『おはよウヴァー！！』

エイジ

「セイヤー！」

ウヴァ

『うヴぁー！』

ゲント

「『時間帯がわからないんで合体挨拶にしました。え、その他グリードさんに相談というか質問（？）』 なんです、第1章 第16話 ロリコンとエリオ変身と海のコンボ』にてロリータコンプレックス になったエイジさんについてぶっちゃけどう思いましたか？（ヴィヴィオちゃん以外） 答えてグリード さん！』

だつて」

エイジ

「ちょっ！」

アंक

「アレは正直ドン引きだったな。変身しねーし」

カザリ

「関わりたくなかった」

ガメル

「オーズ、キモい」

ウヴァ

「う、ウヴァ……」

ロスト

「ちょｗｗｗｗエイジさん何してんスカｗｗｗｗロリコンの主人公とか
ｗｗｗｗ」

メズール

「まあ、趣味は人それぞれだけどねえ……」

セント

「俺は年上のお姉さんの方が好きだな」

ルナ

「主には誰も聞いてません」

エイジ

「ちょ、皆酷いよ！ 特にメズール！ お前のヤミのせいなんだからな！？ お前が俺に言う資格ないよ！？」

メズール

『てへっ』

エイジ

「800歳のおばさんが何を……」

メズール

『何か言ったかしら？』

エイジ

「イイエナニモ」

アंक

「ところでエイジ、お前大事な人物忘れてねえか？」

エイジ

「？」

なのは

「エ・イ・ジ・くうくん」

エイジ

「な、ななななのはちゃん!？」

なのは

「にやははは！ ちょっつとお話してこようか」

エイジ

「19歳がにやははって……う、嘘です嘘ですごめんなさいごめんなさい！ いだだだだだだ！ 耳引っ張らないで！ っていうか皆助けてよ！」

アंक

「それじゃ、今回のラジオーズはここまで。お相手はアंकと！」

гент

「十六夜гентと！」

ルナ

「ルナでした」

アंक・гент・ルナ

「バイバイ！」

アंक

「魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE。この番組は、
鴻上ファウンデーション

時空管理局

喫茶翠屋

多国籍料理店クスクシエ

レストランAGITΩ

魔法仮面シリーズ

の提供でお送りしました！

んでもって今回は、ゼロディアス先生の『仮面ライダーディケイ
ド 〜 異界の旅〜』より

『風上光』、『フェイトIIテストロッサ』、『諸星真紅』、『高
町なのは』が来るぞ！」

奈々

「なるほど。ここで見張っていたかいましたね」

アंक

「!？」

エイジ

「痛い痛い痛い！　なのはちゃん、杖って鈍器じゃないから！　あ、
ちよ、バインドは！　収束は！　スターライトはあああああああ
あ！！」

第2回 ゲストと雰囲気と時間の無駄だ（キリッ（後書き）

・『お前の欲望、解放しろ！』

・『ぼくのかんがえたさいきょーコンボ！』

・『答えてグリード！』

・『ゲストの、カウント・ザ・エピソード！』

・『いたってふつおた』

・ゲストの申し込み

いずれもメッセージへお願いします。感想欄で書かれたものは、下手したら採用されませんのでご注意ください。

CMも募集しております。

そしてそして！

次回はとうとうゲストさん！ 何かとご縁の深いゼロディアスさんの作品からのご登場です。
お楽しみに〜！

おまけ

エイジ

「はが〜」気絶

なのは

(可愛い……)

エイジ

「うゝん……」

なのは

「……ちよつとぐらい、良いよね?」チュ

エイジ

「ほにゃゝ……」

なのは

「えへへ…… / / / / /」

アंक

(声かけづれー……)

第3回 金髪とフラグとお前の罪を数えろ！（血涙（前書き））

ようやく更新……。

今回はとうとう初ゲスト！

第3回 金髪とフラグとお前の罪を数える！（血涙）

エイジ

「これが！ 俺達の！ パンツだあああああああああ
あ！！」

アंक

「馬鹿か」

エイジ

「はっはっは！ 良いではないか腕だけ焼き鳥君」

アंक

「お前ボッコボコのメッコメコのミックミクにすんぞ。つつーか今日は初ゲストなのになことやってていいのか？」

エイジ

「大丈夫だ、問題ない。それに今日のゲストとは良いパンツが履けそうだ」

アंक

「気持ち悪いなこのパンツ系グリード……」

エイジ

「そんな訳で今日も明るく楽しくレッツパンツ！
魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE！」

エイジ・アंक

「レッツ・パンツ！！」

エイジ

「魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE。この番組は、
鴻上ファウンデーション

時空管理局

喫茶翠屋

多国籍料理店クスクシエ

レストランAGITΩ

魔法仮面シリーズ

の提供でお送りします！」

○魔法仮面リリカルラジオーズNANDAKOLE

第3回 金髪とフラグとお前の罪を数えろ！（血涙

エイジ

「おはようヴア！」

そのパンツ、俺に返しなさい！

どうも、メインパーソナリティのエイジ〃ヒノです！」

アंक

「おはようヴア。」

喜べ、アイスタイムだ！

同じく、メインパーソナリティのアंकだ」

エイジ

「この番組は連載中の小説、『魔法仮面リリカルオーズStrike
ers』のラジオ風番組です！」

アंक

「それじゃあ早速ゲストの登場だ〜」

エイジ

「ゼロディアス先生の『仮面ライダーディケイド 異界の旅』より

『風上光』、『フェイトII テスタロッサ』、『諸星真紅』、『高町なのは』

皆さんどうぞー！」

光

「どうも」

フェイト

「くんくん、金髪キャラの匂いがする……？ あ、どうも」

真紅

「勇者真紅、ただいま見つ参っ！！」

なのは

「何してるの？ あ、よろしく願いします」

エイジ

「あれ？ なんか見たことある人が二人……？」

アंक

「俺等の方にいる奴等の方が大人だな。どこで判断したかは聞くな」

光

「今確実に目線胸に当ててたよね？」

アंक

「……さ、まず最初にこのコーナー！」

光・エイジ

（（スルーしたあ！？））

アंक

『ゲストの、カウント・ザ・エピソード！』

エイジ

「このコーナーは、ゲストさんの作品についてのお話をするコーナーです！ 皆何か面白かったお話とかある？」

光

「えー！？ そんな急に聞かれても……」

フェイト

「元々一つの世界にいる時間が短いし、短い中に思い出がギュッと詰まってるからね！」

真紅

「ま、強いて言やあ全部だな」

エイジ

「へ。じゃあ、一番印象に残ってる世界は？」

真紅

「俺からすれば、やっぱり皆に合流した『グレンラガンの世界』かな？」

なのは

「私は苦い思い出ですけど……」

「龍騎 マギカの世界」が……」

光

「僕は真紅やなのはに会えた」「ZERO DAYSの世界」と「リカルアギトの世界」かな？」

フ
エ
イ
ト

「あんな女が出てきた世界は全部……！」ゴゴゴゴゴゴゴゴ

エイジ・アंक

(なんか怖ええええええええええええええええ!!)(

光

「えっと……」

エイジ

「後、金髪キャラにフラグを立てるのが趣味なんだよね？」

光

「いや趣味じゃないから！」

アंक

「いや、実際そんな能力ある訳ねーだろ」

真紅

「いやいや、ブースの外良く見てみ手羽先野郎」

アंक

「誰が手羽先だ……っ!？」

ヴィヴィオ

「はあ……。かつこいい……」

なのは

「ああ！ フェイトちゃんとアंकが壊れて光君に襲い掛かったあ
！？」

真紅

「あゝあゝ、ブースの外に引き摺られていく……」

エイジ

「つ、続いてはこのコーナー！」

エイジ・真紅・なのは

「『ぼくのかんがえたさいきょーこんぼ』！」「」

エイジ

「このコーナーでは、リスナーの皆様が考えて下さったコンボに俺
が、変身っ！……」

真紅

「んじゃ最初な。ラジオネーム、勇往邁進さんから。ほいメダル」

エイジ

「変身っ！……」

「バルバトス！ カオス！ ヒミコ！」

オーズ・若本コンボ

「くおれはあゝ……、いつたいどうおおゝいう事だあゝ……？」

なのは

「似てないの……」

真紅

「えゝつと、

バルバトスヘッド↓いつでもどこでも誰かがアイテムを使うと次元を引き裂き『ぶるわあああああ あ！！！』と叫びながら殴り掛かりたくなる！

カオスアーム↓腕が四本になり全てを破壊する！

ヒミコレッグ↓オネエな歩き方になるが超絶威力の脚力を得る！らしいぞ」

オーズ・ぶるわあああああああ！！！！コンボ

「中々あゝ、かあいてきなもんじゅあねえかあ……」

なのは

「生理的な無理だからはいこれ」

真紅

「R・N・グレンファイヤーさんから。何か新しい宇宙警備隊作り
たくなってくるな」

エイジ

「変身っ！！！」

『グレンファイヤー！　ゴーカイレッド！　ブレアード！』

オーズ・宇宙海賊コンボ

「ファイアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
ア！！」

なのは

「グレンファイヤーとゴーカイレッドは分かるけど、ブレアードっ
てなに？」

真紅

「手元の資料によると、セイザーXという特撮のキャラらしい」

オーズ・ファイアアアアアアアアアアアアアア！！！！コンボ

「アंकの中の人繋がり？」

派手に行くぜ！」

なのは

「今日はこれで終わり？」

真紅

「ああいや、エイジが自分で考えたのがあるんだよね？」

エイジ

「うん。変身っ！……！」

【ナマハゲ！ ノツペラボウ！ ハンニャ！ な・の・は！
はな・の・は！】

オーズ・なのはコンボ

「名付けて、なのはコンボ！」

真紅

「ちょwwwおまつwww」

なのは

「……」

オーズ・魔王コンボ

「自分でもキタコレって思ったwww」

ロスト

『そして誰も居なくなっただ……』

奈々

「やれやれ。ようやく私の出番ですか」

ロスト

『何奴！？ お主、名を名乗れ！』

奈々

「なんですかそのキャラ……。あ、どうも奈々です。光の正真正正銘……」

本妻をやらせていただいております」

ロスト

『嘘乙www』

奈々

「葬りますよ？」

ロスト

『おお怖っ！www』

そんじゃ色々居ないけど次のコーナー行くか』

ロスト・奈々

『「『答えてグリード！』」』

ロスト

『最初のお便りはこちら。R・N・楽園の素敵な巫女さんから。

私には好きな人が居ます、ですがものすごく鈍感でライバルもいてその人も同じ職業なんです、

その人は積極的です、ですが私はあまり素直になれなくて困ってます、どうしたらいいですか？

ツンデレwww』

奈々

「積極性って結構大事ですよ」

ロスト

『そんじゃまあ、姐さん頼むっス!』

メズール

『そうね～。突然素直になれって言うても無理だろうし、あなたはあなたらしく、ゆっくり相手にアピールしていけば良いんじゃないかしら? 相手を見る時間を増やして、目が合った瞬間に逸らす。これだけでも相手は意識してしまうものよ?』

ロスト

『さすが姐さんっス! 惚れる!』

奈々

「大人ですね……。と、それでは次のお便りですね。R・N・山の新人神様さんから頂きました。

私には昔から好きな人が居ますがものすごく鈍感で、しかもある神社にある女性と同居しているんです、

その人も好きらしいのですがどうしたらいいですか?

だそうです。これは誰が行くんですか?」

ロスト

『ああ、姐さんもう一回はなあ……』

ヴィヴィオ

「ヴィヴィオ！ ヴィヴィオが行く！」

ロスト

『おう。そんじゃ頼む』

ヴィヴィオ

「はい！ えっとねえ、こいはじょーねつだよ！」

ロスト

『……ヴィヴィオ、大人モードで』

ヴィヴィオ・聖王モード

「確かに相手にアドバンテージがあると思うけど、そこは自分が積極的に行くしかないかな。相手との距離が恋相手よりも遠いなら、その分だけ自分が走れば良いだけだよ。チャンスは皆に平等にあるんだから！ ファイト！」

奈々

「言ってる事のギャップが凄いですね」

ロスト

『聖王乙つしたwww』

っと、そろそろおしまいの時間か』

奈々

「結局誰も戻ってきませんでしたね」

ロスト

『だなwwwマジザマアwww
んじゃ、今日はここまで！』

奈々

「私が大活躍する小説、『仮面ライダーディケイド 異界の旅』
、大好評連載中です！」

ロスト

『ゼロディアス先生の執筆する、全く新しいディケイドの物語を見
逃すな！』

奈々

「後、ゲストの応募がちょっと変わるんですね？」

ロスト

『おう。長期連載休止作品はご遠慮してもらった。宣伝し
ても更新されない可能性があるしな』

奈々

「そう言っ て来なくなるんですね W W W」

ロスト

『読めるその展開 W W W』

つと、次回は A G I T Ω 先生執筆の『東方英雄光―NEXUS―』より、千矢カズキさんのご登場だ』

奈々

「それではそろそろお暇しましょう」

ロスト

『お相手は、ロスト・アंकと！』

奈々

「海原奈々でした！」

ロスト・奈々

『「バイバイ！」』

ロスト

『魔法仮面リリカルラジオーズ N A N D A K O L E。この番組は、

鴻上ファウンデーション

時空管理局

喫茶翠屋

多国籍料理店クスクシエ

レストランAGITΩ

魔法仮面シリーズ

の提供でお送りしました！
」

光

「きゅん……」

フェイト

「えへへ」

アソク

（何で膝枕……？）

第3回 金髪とフラグとお前の罪を数えろ！（血涙（後書き））

・『お前の欲望、解放しろ！』

・『ぼくのかんがえたさいきょーコンボ！』

・『答えてグリード！』

・『ゲストの、カウント・ザ・エピソード！』

・『いたってふつおた』

・ゲストの申し込み

いずれもメッセージへお願いします。感想欄で書かれたものは、下手したら採用されませんのでご注意ください。

CMも募集しております。

また、ゲストの応募は長期連載休止作品（上に。ヶ月以上更新されていません、みたいなのが書かれているもの）はご遠慮させていただきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7257w/>

魔法仮面リリカルラジオズNANDAKOLE

2011年11月4日19時03分発行